CONTAX T2

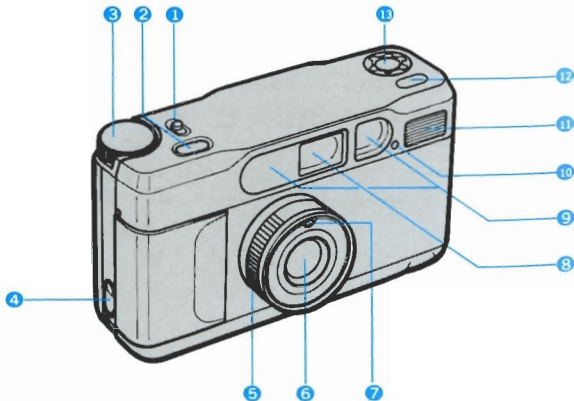
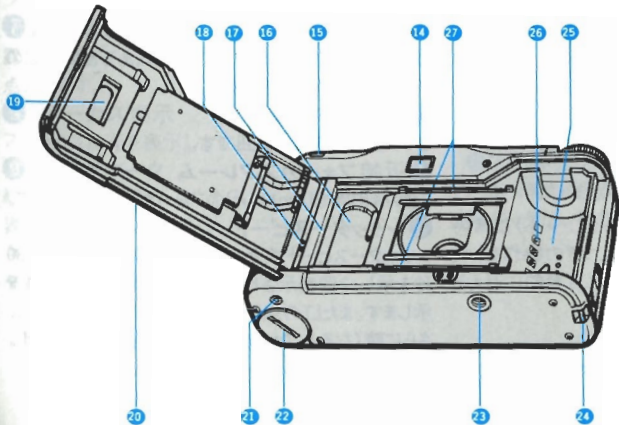
取扱説明書

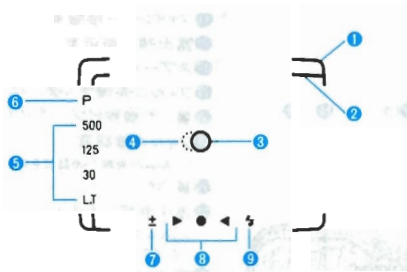
この取扱説明書は、Recycled Paper を使用しています。

このたびはCONTAX T2をお買い上げいただき、ありがとうございます。このカメラは「作品をつくるカメラ」というCONTAXの基本思想を継承しながら、電子制御によるフォーカスシステムや、絞り優先AEにプログラムAEを加えた露出制御機能を搭載した、より使い易い35mmレンズシャッター式カメラです。
ご使用になる前に、必ずこの取扱説明書をよくお読みいただき、正しい取扱いでお使いください。

目　次

各部の名称と主な働き

❶セルフタイマースイッチ
❷シャッターボタン
❸メインスイッチ/フォーカスダイヤル
次の操作を行います。
(1)電源のOFF/ON切替え
OFF……"⊖"マーク
ON……"AF", "∞～0.7"マーク
(2)フォーカスモードの切替え
オートフォーカス……"AF"マーク
マニュアルフォーカス…"∞～0.7"マーク
❹裏ぶた開放ノブ
❺絞りリング
絞りの設定とストロボ撮影モードの切替えを行います。
❻撮影レンズ
❼受光窓
❽ファインダー
❾測距窓
❿セルフタイマーLED
セルフタイマー作動中点滅します。
⓫ストロボ発光部
⓬液晶カウンター
⓭露出補正ダイヤル
補正幅を0.5EVステップで±2EVまで設定できます

⑭ファインダー接眼部
⑮露出補正表示窓
⑯スプール
⑰フィルム先端マーク
⑱裏ぶた着脱ピン
⑲フィルム確認窓
フィルムの有無が確認できます。
⑳裏ぶた
㉑途中巻戻しボタン
フィルムを途中から巻戻すときは、このボタンを押します。
㉒電池ぶた
㉓三脚取付け穴
㉔ストラップ取付け部
㉕フィルム室
㉖DX接点
㉗フィルムガイド

ファインダー内表示

撮影範囲枠とフォーカスフレーム(①～④)は常時表示されていますが、他の表示はつぎの操作をしたときに表示され、8秒間表示したあと自動的に消える省電設計になっています。

1. メインスイッチをONにしたとき。
2. メインスイッチをONの状態で、シャッターボタン、フォーカスダイヤルを動かしたとき。

❶ 撮影範囲枠
写したいものが遠距離にあるとき、この枠内に見える範囲が写ります。

❷ 近接撮影範囲枠
写したいものが0.7m～1mの距離にあるときは、この枠内に被写体をおさめます。

❸ フォーカスフレーム
ピント合わせを行う範囲です。

❹ 近接フォーカスフレーム
近接撮影時(0.7m～1m)のフォーカスフレームです。

❺ シャッタースピード
シャッタースピード表示は、500は1/500秒を30は1/30秒を示し、2個表示されているときは、その間の値を示します。またLTの点灯は1/30秒未満～1秒を示し、さらに暗くなるとLTが点滅しバルブ撮影になります。500の点滅は露出オーバーを意味します。

⑥プログラム表示

絞りをF2.8にセット時、自動的に絞りが絞り込まれて、プログラムAEとなるときに"P"が点灯します。

⑦露出補正マーク

露出補正ダイヤルを"0"以外にすると"±"マークが点灯します。

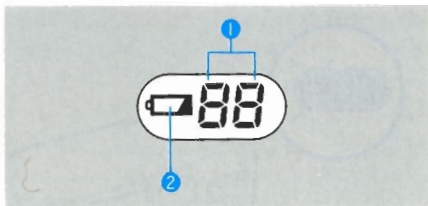
⑧フォーカス表示

フォーカス状況を表示します。

⑨ストロボマーク

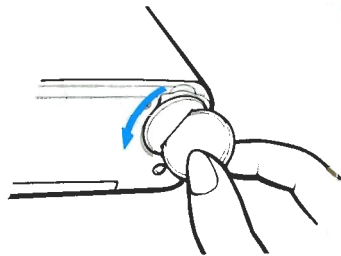
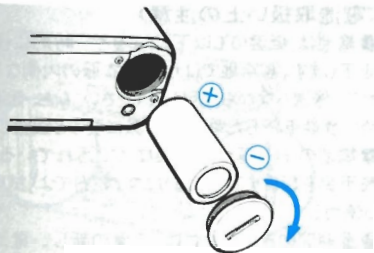
絞りリングを"ϟ"または"ϟϟ"にセットしたときのみ表示。

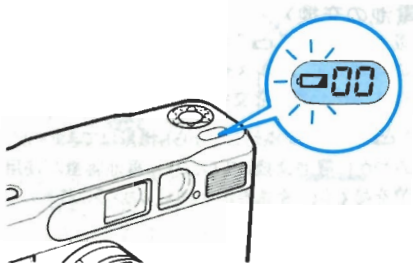
ϟ 点滅………充電中

ϟ 点灯………充電完了

①フィルムカウンター(セルフタイマー残り時間、バルブ時の経過時間も表示します。)

②バッテリー警告マーク

1. 電池を入れます。

撮影の基本操作

1 電池ぶたをコインなどを利用し、矢印の方向に回して開けます。

2 電池室内の表示に従って電池を正しい向きで入れ、ふたを元通りに閉めます。

●電池は3Vリチウム電池(CR123AまたはDL123A)1個を使用します。

液晶カウンターにフィルムカウンターのみ表示され"▭"(バッテリー警告マーク)が表示されないときは、電池の電圧は正常です。

〈電池の交換〉

液晶カウンターに"▭"マークが点灯したら、電池交換の時期です。メインスイッチをOFFにし、電池ぶたを開けて、新しい電池と交換してください。

●"▭"マークが点灯してからも撮影はできますが、すみやかに電池交換してください。電池容量が使用限界を越えると、液晶表示が消灯しカメラは作動しなくなります。

〈電池取扱い上の注意〉

●電池は、低温(0°C以下)になると一時的に性能が低下します。寒冷地ではカメラを衣服の内側などに入れて、保温しながら使用してください。なお、低温のために性能低下した電池は常温に戻ると回復します。

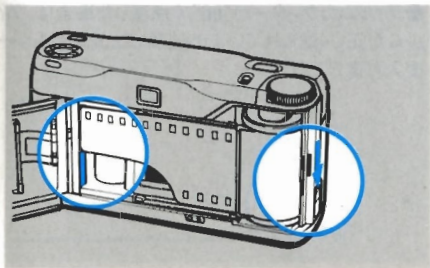
●電池の＋－極が汗や油などで汚れていると、接触不良を起こす原因となります。乾布でよく拭いてから使用してください。

●長期間の旅行などには、予備の新しい電池を用意することをおすすめします。

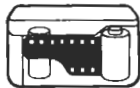
●電池を火の中に入れたり、充電、ショート、分解、加熱するのは危険ですから絶対にしないでください。

●電池の＋－を間違えて入れるとカメラは作動しません。

●3Vリチウム電池(CR123AまたはDL123A)は充電できません。

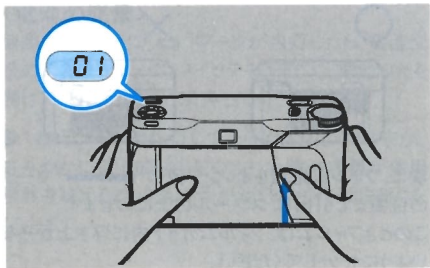
2.裏ぶたを開け、DXマークのついたフィルムをいれます。

1 裏ぶた開放ノブを矢印の方向に下げると裏ぶたが開きます。

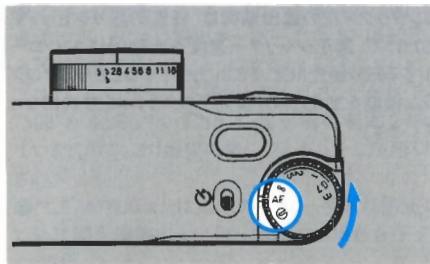
2 DXマーク付のフィルムを入れ、フィルムの先端を“━━━”マークにあわせます。

フィルム室にフィルムパトローネを斜め上から差し込むようにして入れます。

次に、フィルム先端をオレンジ色の“━━━”マークの位置まで引出し、スプールの上にのせます。
このときフィルムは、フィルムガイド内に浮き上がらないようにセットしてください。

●DXマークのついたフィルムのフィルム感度は自動的にセットされ、DXマークのないフィルムはISO100にセットされます。
●DX接点はむやみに触れたり、汚したりしないように注意してください。
●フィルムを交換するときは直射日光を避けてください。

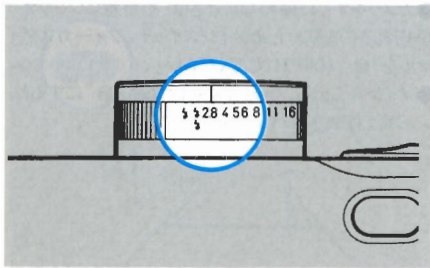
3 裏ぶたを確実に閉めます。

裏ぶたを閉めると、フィルムが自動的に空送りされ、フィルムカウンターが"01"になって停止します。

●フィルムカウンターが"00"で点滅した場合は、フィルムが正しく送られていません。裏ぶたを開けもう一度入れ直してください。

3.メインスイッチをON(AF)にします。

メインスイッチ/フォーカスダイヤルを“⊖”→“AF”にするとカメラ電源がONになり、オートフォーカス撮影モードにセットされます。自動的にレンズバリアが開き、レンズが繰り出されて撮影ができる状態になります。

●カメラをすぐに使わないときは、不用意にシャッターが切れるのを防ぐためメインスイッチ/フォーカスダイヤルを“⊖”(OFF)にしてください。

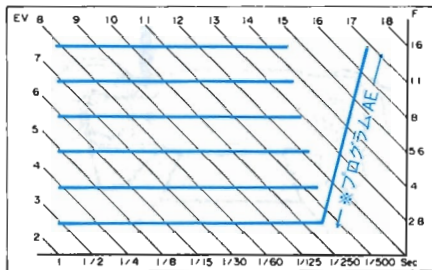
●メインスイッチ/フォーカスダイヤルを“⊖”にすると、レンズは収納されバリアが閉じます。

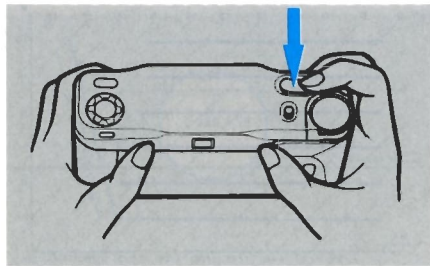
4.絞りをセットします。

レンズの絞りリングを回して絞りをセットします。このときファインダー内には、絞りに応じたシャッタースピードが表示されます。

コンタックスT2の露出制御は、任意の絞りをセットするだけで、適正シャッター速度を自動的にコントロールする絞り優先AEと、F2.8にセットするとさらにプログラム機能を加えた絞り優先プログラムAE方式になっています。

●ファインダー内シャッタースピード表示の"500"が点滅しているときは露出オーバーです。絞りを絞り込み"500"が点滅しないようにするか、F2.8にセットし、プログラムモードにして撮影してください。それでも"500"が点滅しているときは、露出制御範囲を越えていますので、より感度の低いフィルムをご使用ください。

●"LT"が点灯または点滅のときは、手振れ防止のため三脚を使用するかまたは、ストロボ撮影を行ってください。

●"LT"点滅時は、自動的にバルブ撮影になります。

プログラム時及び絞り優先時の各絞りに対する測光範囲及び最高シャッタースピードは図のように変わります。
※フログラムAE時に"P"マークが点灯します。

5.撮影します。

1 ピントを合わせたい被写体にフォーカスフレームを向け、シャッターボタンを半押しします。

2 自動的にピント合わせが行われ、フォーカス表示の“●”マークが点灯します。

3 さらにシャッターボタンを押し込むと、シャッターが切れ撮影が行われます。

撮影範囲：0.7m〜∞

●“▶”マークが点滅しているときは被写体との距離が近すぎます。0.7m以上の距離で撮影してください。

●“▶”マークが点滅してもシャッターは切れます。

●被写体との距離が約0.4m以下のとき、“●”マークが点灯しますがピントは合いません。

●撮影のときはピント合わせのためレンズ鏡胴がシャッターを押すと同時に前後に動きます。撮影するときはレンズ鏡胴に触れないように注意してください。

6. フィルムを全部撮影し終えると自動的に巻戻しが始まります。

巻戻し中はフィルムカウンターが減算表示し、巻戻しが終了すると、モーターが停止しカウンターの"00"表示が点滅します。
巻戻し終了後、裏ぶたを開けてフィルムを取出してください。

●取出したフィルムは早めに現像に出しましょう。
●フィルムを途中で巻戻すときは、カメラ下側にある巻戻しボタンを押してください。(針などの尖ったものでは押さないようにしてください。)

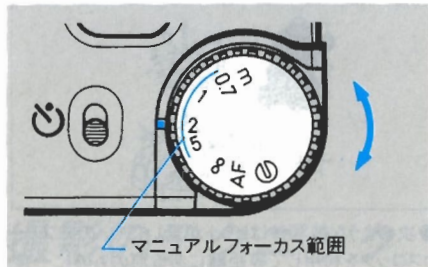
撮影のテクニック

オートフォーカス撮影のとき、構図によって、ピントを合わせたい被写体がフォーカスフレームからはずれる場合には、フォーカスロック撮影をします。

1 ピントを合わせたい被写体にフォーカスフレームを向け、シャッターボタンを半押しすると、ピント合わせが行われ"●"マークが点灯します。(フォーカスロック)

2 シャッターボタンを半押ししたまま写したい構図にカメラを戻し、さらにシャッターボタンを押して撮影します。

●半押ししている間はピントはロックされていますので、カメラの向きを変えてもピントは変わりません。
●フォーカスロックは、シャッターボタンから指を離すと解除されます。

●次のような被写体はピントが合いにくいのでフォーカスロックを利用して等距離にある別のものに一度ピントを合わせてから撮影しましょう。
◆フォーカスフレームやその周辺に、太陽光など強い光源があるとき
◆線香花火や煙のように実体のないもの
◆車のボディや水面のように光沢があるもの
◆髪の毛のように反射しにくいもの
◆ガラスごしの被写体
◆極端に小さいもの

1 メインスイッチ/フォーカスダイヤルをマニュアルフォーカス範囲にセットします。

2 ピントを合わせたい被写体にフォーカスフレームを向け、フォーカス表示を見ながらフォーカスダイヤルを動かしてピントを合わせます。

3 シャッターボタンを押して撮影します。

ピント合わせ後に構図を変えての撮影や、目測で距離をセットしてシャッターチャンスに専念する撮影等ができます。

遠景撮影

遠くの風景などを撮影するときは、フォーカスダイヤルを"∞"マークにセットして撮影してください。よりシャープな風景写真を撮ることができます。

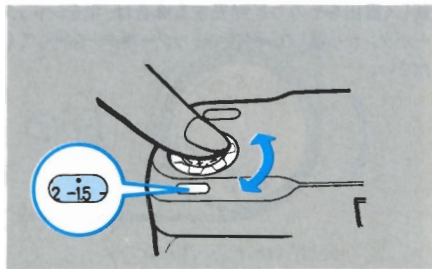
フォーカス表示

"◀"マーク（赤）　フォーカスフレーム内の被写体よりも手前にピントが合っている。(前ピン)

"●"マーク（緑）　フォーカスフレーム内の被写体にピントが合っている。(合焦)

"▶"マーク（赤）　フォーカスフレーム内の被写体よりも遠方にピントが合っている。(後ピン)

AE ロック

シャッターボタンを半押しすると、そのときの露出が固定される機能が入っています(AEロック)。特に画面の中心以外の被写体に露出を合わせたいときは、合わせたい被写体にカメラを向けて、シャッターボタンを半押しした後構図を変えてシャッターを切るとAEロックした被写体に露出が合います。
露出とピントを同時にロックしますので、ピントを合わせたいものと露出を合わせたいものが違うときは、ピントはマニュアルフォーカスにして露出はシャッターボタンを半押しし、AEロックにして撮影してください。
シャッターを切った後、シャッターボタンから指を離さずに半押し状態まで戻して再び押込むと露出とピントをロックしたまま連続して撮影できます。
新しく露出をそのつど測光する場合は、指をシャッターボタンから離して、再度シャッターボタンを押してください。

露出補正

撮影のとき、主要被写体とその背景に極端な明暗差があるために、そのままでは主要被写体に適正露出が得られない場合、あるいは意図的に露出オーバー、アンダーの写真を撮りたいときには、露出補正を行います。

通常は露出補正ダイヤルを“0”にセットしておきますが、露出を補正するときは、露出補正ダイヤルを回して希望する補正値を露出補正表示窓にセットします。補正値は＋2EV～－2EVまでの範囲内で0.5EVごとにセットすることができます。またファインダー内には“0”以外にセットすると“±”マークが点灯します。

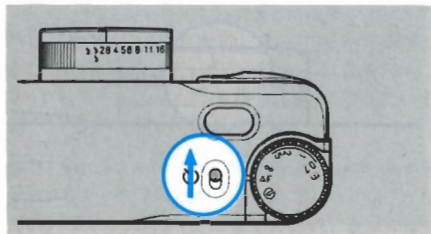
●撮影終了後は、必ず露出補正ダイヤルを“0”に戻してください。

逆光撮影などのときは………“＋0.5～＋2”の範囲で補正します。

逆光や明るい空、海をバックにした人物、または窓辺の人物などのように明るい背景が撮影画面に占める割合が大きい場合、人物は露出アンダーになり、シルエットのように暗くなります。このようなときは、露出を＋0.5～＋2の範囲で補正して、露出を多く与えます。

舞台撮影などのときは………"－0.5～－2"の範囲で補正します。

スポットライトに照らし出された人物などのように、暗い背景が撮影画面に占める割合が大きい場合、人物は露出オーバーになり白っぽくなります。このようなときは、露出を－0.5～－2の範囲で補正して、露出を少なくして撮影します。

セルフタイマー撮影

記念撮影などで自分も一緒に写りたいときはセルフタイマーを利用します。

1 カメラを三脚などで固定します。

2 セルフタイマースイッチをON（赤色）にします。

3 ピントを合わせシャッターボタンを押すとセルフタイマーが作動し、10秒後にシャッターが切れます。

セルタイマー作動中フィルムカウンターは、シャッターが切れるまでの残り時間（秒）を示す表示になり、セルフタイマーLEDとファインダー内“●”マークが点滅します。

●セルフタイマースタート時に露出とピントがロックされます。

●セルフタイマー作動中にシャッターボタンを押すと、カウンターはまた最初に戻り時間をカウントしはじめます。

●セルフタイマーを途中で中止するときは、セルフタイマースイッチをOFF（黒色）にするかメインスイッチをOFFにしてください。

●ストロボ充電中はセルフタイマーをスタートさせることはできません。

●セルフタイマーを使わないときは必ずセルフタイマースイッチをOFF（黒色）にしてください

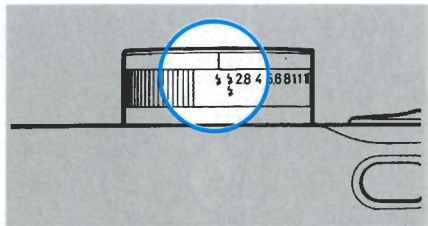
ストロボ撮影

絞りリングを"ϟ"または"ϟϟ"にセットすると、被写体の明るさにかかわらずストロボ撮影になります。ファインダー内では"ϟ"マークが充電中には点滅し、充電完了すると点灯しますので、充電完了を確認してから撮影してください。

フィルム感度(ISO)	ストロボ撮影距離
100	0.7m〜3m
400	1m〜6m

1 ストロボ撮影モード………"ϟ"マーク

暗いところでの撮影や、明るいところでも窓際の人物など、バックが明るすぎて逆光になっているときに被写体とバックをともにきれいに撮影することができます。

2 プリ発光モード………"ϟϟ"マーク

暗いところで人物を撮影すると、ごくまれに目の瞳が赤く写る(赤目現象)ことがあります。プリ発光モードはこの赤目現象を軽減させるモードです。このモードではストロボが2回発光します。2回目の発光のときシャッターがきれますので1度目の発光の後カメラを動かしたり人物が動かないように注意してください。

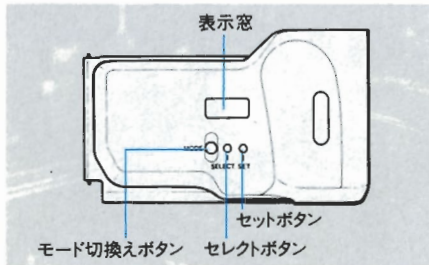
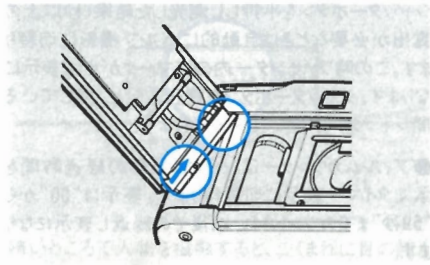
●露出制御は被写体との距離に応じて絞りが変わるフラッシュマチック方式です。

●充電中にシャッターを切ることはできません。

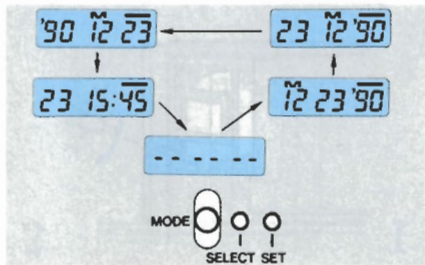
バルブ撮影

シャッターボタンを半押しし測光した結果1秒以上の露出が必要なときは自動的にバルブ撮影に切替ります。この時ファインダー内のLTマークが点滅表示になります。シャッターボタンを押し込むと、押している間シャッターが開いて露光されます。

●フィルムカウンターは、バルブ撮影の経過時間を示すタイマー表示に切替わります。表示は“00”から“59秒”までカウントされ、以後その繰返し表示になります。
●手振れ防止のため三脚をご使用ください。

CONTAX T2データバック(別売)

カメラの裏ぶたと交換して装着するだけで、カメラボディと連動するクォーツ制御の液晶式データバックです。オートデート機構により日付や時刻を自動的に写し込むことができます。

カメラへの取付け

1 カメラに標準装着されている裏ぶたを開き、裏ぶた着脱ピンを押上げながら取外します。

2 データバックの取付け軸の上側をカメラの取付け穴に差込み、着脱ピンを押上げながら下側の軸も取付け穴に合わせ、着脱ピンから指を離します。これで取付けは完了です。

日付け・時刻の写し込み

デート用電池は工場出荷時にセットされていますのでそのままご使用になれます。

1 写し込むモードを選びます。

モード切換えボタンを押すごとに、年・月・日→日・時・分→‥‥‥(写し込み無し)→月・日・年→日・月・年の順にモードが変わりますので希望する表示を出してください。

2 シャッターボタンを押して撮影します。

●表示窓右上の"ー"マークが点滅して表示が写し込まれたことを示します。

●数字の上に出る"M"表示は月(Month)を表すマークで、写し込みはされません。

●日付や時刻を入れたくないときは、‥‥‥のモードにして撮影します。

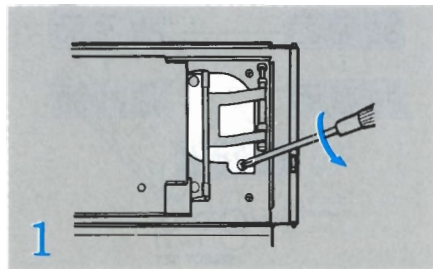
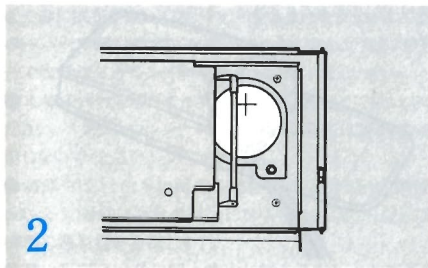
●写し込みは写真の右下隅になります。写し込み位置の背景が白や黄色のように明るいときは、数字が読みにくくなりますので注意してください。

◎日付け・時刻のデータを修正する場合は、次のようにしてください。

1 モードボタンを押して修正する表示を出します。

2 セレクトボタンを押して修正する位置の数字を点滅させます。

3 セットボタンを押して正しい値になおします。(時刻表示で：が点滅している場合は秒合わせです。時報に合わせてセットボタンを押すと正確な時間合わせができます。)

4 修正が終ったら数字の点滅が消えるまでセレクトボタンを押します。

データバック用電池は、長寿命のリチウム電池(CR2025)を採用しているため約3〜4年間は交換不要です。電池が消耗してくると日付けや時刻の写し込みが薄くなったり、液晶表示が正常な表示をしなくなります。このときは図のようにして電池を交換してください。

1 裏ぶたを開け、電池ぶたを固定している止めネジをはずしふたを開けます。

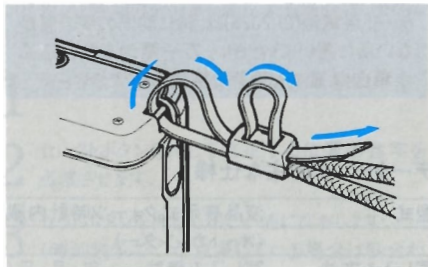
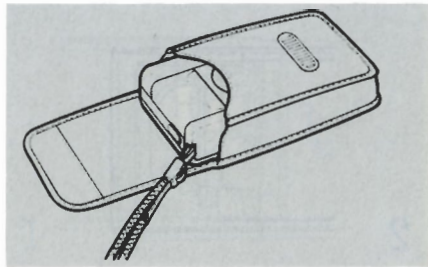
2 新しい電池を＋側を表にして電池室内に入れふたを元通りに閉めます。

●電池を交換したあとは、必ず日付と時刻を合わせ直してください。

デート用電池(CR2025)は、特に幼児の手の届かない所に置いてください。万一電池を飲み込んだ場合は、直ちに医師と相談してください。

データバックの主な仕様

型式	液晶表示式クォーツ時計内蔵(オートカレンダー)
写し込み方法	写し込み機能……年・月・日/日・時・分/写し込みなし/月・日・年/日・月・年　シャッター作動に連動した自動写し込み
フィルム感度設定	自動設定
電源	3Vリチウム電池(CR2025)
寸法	102(幅)×59(高さ)×15(奥行き)mm

ストラップ/ケース(付属品)

ストラップは図のように取付けてください。
(ストラップは短いSタイプと、長いLタイプの2種類付属)

●ケースをベルト等に取付けて使用するときは、カメラの落下を防ぐためにストラップLを使い、首にかけるかまたはベルトに通してお使いください。

カメラは大切に扱いましょう

●撮影レンズなどを指紋などで汚すとカメラの精度に影響を及ぼすので充分注意してください。もし汚れた場合は、むやみに拭かずレンズクリーナーを含ませたクリーニングペーパーで軽く拭いてください。またゴミやホコリはブロアーで吹飛ばすかレンズ刷毛で払うようにしてください。

●本体の汚れを落とすときは、柔らかい布などで拭いてください。ベンジンやシンナーなどの有機溶剤は絶対に使用しないでください。

●海岸やほこりの多い所での撮影後は、カメラをよく清掃しましょう。潮風は腐食の原因になり、また砂ぼこりなどは機構に悪影響を及ぼします。

●寒いところから急に暖い室内に持ち込むと、レンズがくもることがあります。しばらくするとくもりは消えますが、できるだけ急激な温度変化は避けてください。

●本機内部には高電圧回路があり危険です。故障の場合は絶対に自分で分解しないでください。

●海外旅行や結婚式など大切な撮影のときは、前もって作動の確認、またはテスト撮影をしてから使用してください。また予備の電池を携行することをおすすめします。

●カメラは精密機器ですので、落としたり、大きなショックを与えたりしないでください。

寒冷地でのカメラの取扱いについて

寒冷地ではカメラを衣服の内側などに入れて保温しながら使用してください。低温(0°C以下)になると電池性能が一時的に低下し、カメラが作動しなくなることがあります。なお低温のため性能低下した電池は常温に戻ると回復します。

マイクロコンピューターの保護回路について

このカメラは外部の強力な静電気に対して内部のマイクロコンピューターを保護するための安全回路を内蔵しています。この安全回路の働きにより極めてまれにカメラが作動しなくなることがあります。このような場合は、メインスイッチをOFFにし、電池を一旦取出して、もう一度入れ直してからご使用ください。

主な仕様

型式：35mmレンズシャッター式ストロボ内蔵　自動焦点AEカメラ

画面サイズ：24×36mm

レンズ：カールツァイスT＊ゾナー38mm F2.8（4群5枚）

絞り：F2.8〜16

撮影範囲：0.7m〜∞

シャッター：絞り優先プログラムAE電子シャッター　電子レリーズ方式

シャッタースピード：プログラムAE時……1秒〜1/500秒　絞り優先時……1秒〜1/200秒以下（設定絞りにより最高シャッタースピードは変化します。）　※1秒を越えるとオートバルブ　ストロボ発光時……1/30秒〜1/500秒

セルフタイマー：電子式　作動時間10秒　途中解除可

露出制御：絞り優先プログラムAE

測光範囲(ISO100)：EV3〜EV17

測光方式：SPD素子による外部測光方式

露出補正：±2EV(0.5EVステップ)

フィルム感度：自動セット(DX方式)ISO25〜5000に連動　DXフィルム以外はISO100に設定

ピント合わせ：フォーカスダイヤルによるオートフォーカス、マニュアルフォーカス切替え式

測距方式：赤外線アクティブ方式

ファインダー型式：逆ガリレオ型採光式ブライトフレーム　倍率および視野率……0.6倍　85％(∞)

ファインダー内表示：撮影範囲枠(近接撮影範囲枠付)、フォーカスフレーム(近接フォーカスフレーム付)、シャッタースピード、露出補正マーク、フォーカス表示、ストロボマーク、プログラムマーク、セルフタイマー作動表示

ストロボ：フラッシュマチック方式(赤目軽減プリ発光機能付)　撮影距離……0.7m〜3m(ISO100)　充電時間……約3.5秒(常温、新品電池使用時)

フィルム装填：オートローディング式(自動空送り機構付)

フィルム巻上げ：自動巻上げ

フィルム巻戻し：オートリターン/オートストップ機構、途中巻戻し可能

フィルムカウンター：液晶表示、自動復元順算式　セルフタイマー残り時間、バルブ経過時間表示

裏ぶた：裏ぶた開放ノブによる開閉式　着脱可能

電池：3Vリチウム電池(CR123AまたはDL123A)50％ストロボ使用で24枚撮りフィルム約25本撮影可能(新品電池使用、常温、当社撮影基準による)

寸法：119(幅)×66(高さ)×33(奥行き)mm

重量：295g(電池別)

※仕様・外観の一部を予告なく変更することがありますのでご了承ください。